

御中
御中

キャッシュフロー増額の具体的な実施策を検討し実行を促す

『問題特定解決会議』の提案書

－提案日－

実施日：平成 30 年 月 日

於：



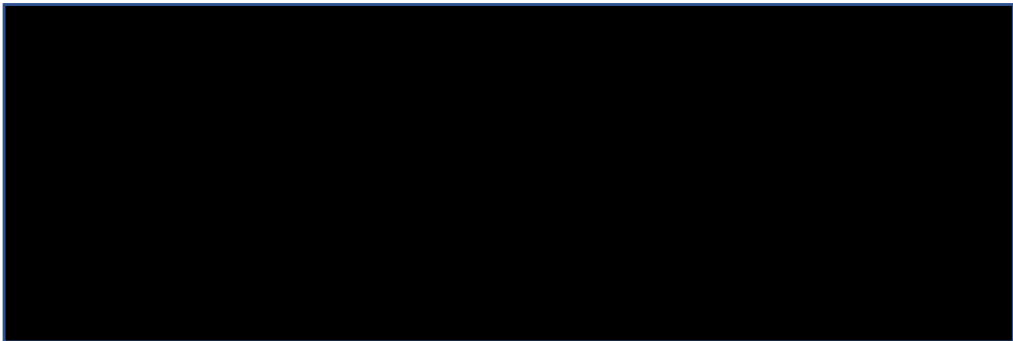
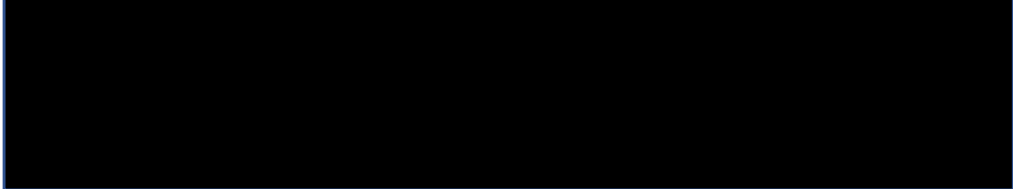
税理士法人 ヤマト
株式会社 ヤマトシェアリング

I 問題特定解決会議を行う目的

「の永続性を確保し地域の及び従業員の幸せに貢献するために、キャッシュフローの改善を最優先事項とする会議体を新たに組成し、現預金の確実な増加に資する」

II 「現預金の増加」に論点を絞ることの意義

1) 最優先で解決すべき問題（共有済）

- ① 
- ② 

「短期間（今期、来期）における現預金残高の増加が必達目標」
～3年後や5年後の現預金を増加させるのではありません
今すぐ実施できないことは未来においても実施できないと考えています

2) 意義

「“短期間における現預金を増加させる”ことに論点を絞り込むことにより、“現預金の増加”にプラスかマイナスかを論拠としたシンプルな経営判断が可能となり、結果として“現預金の増加”が達成できる」

現預金の増加にプラスなことは

- ①粗利益額の増加（売上の増加、売上原価（労務費）の削減）
- ②販売管理費の削減（人件費の削減、委託先の見直し、費用対効果の検証、科目を細かく分けてムダムラなどの削減可能なものがないかを探す）

「経理改善」の実施により、エビデンス（各種指標）を基にした、具体的な対策や検証が可能となります。

Ⅲ 問題特定解決会議の進め方

1) 参加メンバー（案）

（意思決定者及び実行者）：
（株）ヤマトシェアリング（議事進行及び指標等の提示）：鈴木樹雄、鈴木智枝

2) ルール（案）

- ①今から事業を開始するものとしてゼロベースで、組織体制を見直す
- ②従来からの慣習、付き合い、しがらみなどの聖域を設けずに“費用対効果”の観点で全ての支出を見直す
- ③例えば、コピー機のリースなど調達先が複数に分散しているものは、1社に絞ることによる節減を検証すると共に、2社以上の競合による調達を原則とし、調達コストの削減を図る
- ④「現預金の増加」に結びつく意見は全て受け容れた上で、実施の有無を決める
- ⑤会議毎に、「実施策」「実行者」「期限」「実行内容」を決定し、チャットワーク（コミュニケーションツール）で進捗管理を行うと共に、次の会議の冒頭に「進捗状況」と「結果」を確認する

3) 役割分担

- ①
・意思決定
・実行責任
- ②（株）ヤマトシェアリング
・議事進行（ファシリテーター）とルールに則しているかの検証
・議事録作成と決定事項の進捗管理
・各種指標や思考方法の提示

Ⅳ 報酬（不要となり次第取り止める）

